

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873800373
法人名	有限会社清水商事
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
所在地	西予市宇和町坂戸336-1
自己評価作成日	平成 27年 10月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本位でしたい事をしてもらい、笑顔で過ごせるような対応に努めている。自然豊かな環境で、静かでゆったりと過ごせる。散歩では、季節を感じ楽しむことが出来る。買い物や外出を多く取り入れ、利用者の方に喜んでもらえるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は田園の中に立つ平屋の建物で、開設してから13年目を迎える。開設当初から入居している利用者も多く、100歳以上の利用者が3名いる。職員みんなで話し合っ決めて「笑顔ある生活」を理念として掲げ、笑顔で呼びかけ、利用者のペースに合わせてケアを行うことを大切にしている。近くの保育園児が散歩で事業所近くに来たことがきっかけで始まった園児との交流は、今では毎月訪れて一緒に手遊びをしたり、歌や踊りを披露してくれるまでになっている。また、利用者は登下校する小学生の姿をリビングから窓越しに見守っている。重度化が進み、歩行レベルが低下している利用者が多くなっているが、散歩や買い物、季節の花見物、外食、地域行事に参加するなど、できるだけ外出の機会を増やそうと努めている。職員は利用者の笑顔を仕事のやりがいとして、一人ひとりを大切に質の高いサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム宇和ひまわり

(ユニット名) A棟

記入者(管理者)  
氏名 松本京子

評価完了日 27年 10月 5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念「笑顔ある生活」と指針を、目につく所に貼り、笑顔で利用者の方々のペースで、生活を送れるよう係わりをもっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は理念に「笑顔ある生活」を掲げ、3つの指針を作成している。職員は、笑顔で利用者に接し、利用者のペースに合わせてケアを行うことを大切にしており、毎月行われる職員会において、日常のケアが理念に即したものになっているか振り返っている。また、理念を実践するために、職員自身の体調を良好に保つことの大切さを認識し、職員の精神衛生にも留意している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には、積極的に参加している。保育園や婦人会の方の来訪もあり、交流がある。散歩や買い物先でも挨拶をし、交流をもっている。</p> <p>(外部評価) 近くの保育園児が散歩で事業所近くにきたことがきっかけで始まった園児との交流は、今では毎月行われ、利用者は園児と一緒に手遊びをしたり、歌や踊りを楽しんでいる。事業所前の道路は小学生の通学路になっており、利用者はリビングの窓越しに登下校を見守っている。また、地域の秋祭りには五鹿おどりや亥の子が訪れて交流をしている。日常的には、買い物やごみ出しで出会った近所の人と挨拶を交わしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の行事や、外出、ボランティアの受け入れ等を通じ、交流を持つことにより、理解、支援してもらえるよう心掛けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年に6回運営推進会議を行い、意見交換等している。年末には、もちつきにも参加していただき利用者との交流をもってもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、民生委員、老人クラブ会長、他のグループホーム職員、市職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や行事報告の他、駐在所警察官、地域包括支援センター職員の講話を取り入れている。また、毎年餅つきを一緒に行って交流している。災害時の近隣との協力体制について助言を得、地区消防団との繋がりを持つことができた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、意見を参考にしている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっている。今年より地域包括支援センターに働きかけて運営推進会議に出席してもらうようになり、連携を深めている。市から研修案内があると、なるべく出席するようにしている。また、年間6回介護相談員が訪れ、利用者の話しに耳を傾けてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会議や、職員間で話し合いしている。特に声掛け等気を付けている。玄関は、開いたら音が出るようにし、早めの対応をしている。	
			(外部評価) 外部研修に参加して職員会で報告し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は利用者がやりたくないことを奨めるのも拘束と考えており、利用者の思いを大切にしよう努めている。転倒の危険のある利用者には鈴をつけてもらい、夜間すぐに駆けつけられるよう工夫している。事業所の前は公道になっており車の往来もあるが、日中玄関は施錠せず、職員は必ず一人はリビングに居るように声を掛け合って、見守りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月1回の会議で研修に参加し報告を行い、職員が、それぞれ注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、職員会議で報告をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明をし、不安や疑問などがあれば、説明を行い、理解、納得が得られるように心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に苦情箱や担当者を明記し、説明を行っている。面会の時などに、近況報告をし、意見や要望を伺っている。ケアプランの作成を行い、説明をしている。  (外部評価) 家族が面会に来た時は必ず声を掛けて、勤務している職員が日々の様子を伝えている。遠方に住む家族には担当職員が近況を書いた手紙を請求書と一緒に送り、変化があった時は電話で知らせている。年2回家族会を開催し、昼食を兼ねて意見交換を行っている。運営に対する注文や、家族同士で話しがしたいという意見もあり、次回の家族会に反映する計画である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的リーダー会議を行ったり、月1回の会議で相談したり、意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 月1回の職員会は全員参加で行っており、現場での問題やケア内容について皆で話し合っている。職員から出た意見は管理者が経営者に伝え、反映させている。管理者は個人の能力に応じて研修を受けられるよう配慮し、さらに研修への参加は勤務扱いとしている。また、子育てと仕事が両立できるよう、勤務体制への配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者に報告をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の参加を促す。会議で研修報告を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設との運営推進会議や行事、勉強会等参加してもらい、交流を通し、質の向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に家族、本人に希望を聞いている。声掛けを行いながら、話をよく聞き関係づくりをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 日頃より不安感を与えないようコミュニケーションを図っている。また、家族の要望にお応え出来るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族、本人と十分に話しをして対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 係わりを持ちながら、コミュニケーションをとり、支えながら生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月手紙を書いて、近況報告をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族、知人など、いつでも面会に来ていただけるよう心掛けている。電話もかけたい時には支援している。	
			(外部評価) 地元からの入居者が多く、近所の方や知人が訪ねてくる。同じ地区から入居している利用者は、ユニット間を自由に往来して付き合いが継続できるよう配慮している。買い物に出かけた先で知人に会うこともあり、挨拶を交わしている。また、家族が付き添って墓参りに出かけた時、自宅を見たいという利用者には自宅近くまでドライブする等して、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆でできるレクリエーションを楽しんでもらえるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約後も、相談があれば対応している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人や家族との係わりの中で、希望や意向を聞くように努めている。生活歴の情報は用紙に記入しており、会議などで話し合いをしている。	
			(外部評価) 日常の会話や利用者同士の会話、家族との面談を通して一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。1対1になる入浴介助時は昔話しも出て、思いを聞く好機になっている。知り得た情報は記録用紙に追記して職員間で共有している。思いを伝えることが困難な利用者には、表情や反応から汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族より聞き取りを行い、生活歴の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、バイタルチェックをしている。興味のあるもの、好きな事などしてもらおうよう声掛けしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の意見を聞き、介護計画を作成している。月1回の職員会議で話し合いをもち見直しを行っている。	
			(外部評価) 担当制をとっており、担当職員が本人や家族の意向を確認して原案を作成し、計画作成担当者と管理者が確認をしている。毎月モニタリングを実施し、職員会で話し合っって利用者の現状にあった計画になっているか検討している。6か月毎に家族にも参加してもらって担当者会議を開催し、家族の同意を得ている。遠方の家族には電話で意向を確認し、郵送している。介護計画は介護記録ファイルに綴じ、計画に沿ったケアが行われているか毎日実施状況をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録された日々の様子や、ケアの実践、気づきや工夫などを、職員間で共有しながら見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人やかぞくの状況に応じて必要なサービスが出来るように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 避難訓練、地域の行事の参加、保育園児との交流やボランティアの方に来てもらい、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的に医療機関に受診している。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう 支援している。旧町内の医療機関であれば、職員が付 き添って受診している。町外にある専門科医院への通 院は通常家族が付き添うが、状況を把握するため職員 が付き添うこともある。職員は日頃より利用者の健康 状態をよく観察し、異常の早期発見に努めて適正な医 療が受けられるよう心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調管理に気を付け、異常があれば受診するよう にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は付き添い情報提供している。退院時は、家 族、施設職員、病院関係者と相談をして情報交換し ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族と話し合い、医師と相談しながら方針を決 めている。	
			(外部評価) 現時点では、看取り支援は行っていないことを利用者 や家族に説明し、理解を得るようにしている。利用者 が重度化し医療が必要な状態になれば、医師と家族で 相談して入院できるよう支援している。現在往診でき るかかりつけ医がないため、看取りケアを行う医療 体制が整っていないが、将来的には家族の希望があ り、条件が整えば看取りケアが必要になると管 理者は考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故対応時について、マニュアルを作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回避難訓練を実施している。  (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと避難訓練を行っている。運営推進会議で訓練の報告を行い、避難手順を誰が見ても分かるように壁に掲示した。また、会議を通して地区の消防団と面識を持つことができ、次回の訓練にも参加を依頼している。水や食料等の備蓄品の整備も行っている。	事業所は、運営推進会議の助言を得て地区消防団との協力体制づくりに取り組もうとしている。実地訓練を通して、具体的な役割分担等の協議ができることを期待したい。また、職員全員が交代で避難訓練に参加し、いざという時に避難誘導ができることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉かけに気を付けている。トイレ誘導時など他者に配慮し、声掛けに注意している。  (外部評価) 管理者は利用者一人ひとりを尊重するケアを行うためには、利用者の話をよく聴くことから始めなければならないと考え、新入職員への指導を行っている。排泄や入浴介助を行う際に恥辱心に配慮することはもちろん、個人情報の取り扱いを慎重に行うよう努めている。守秘義務を徹底し、引継ぎの時に個人名を出さない等、職員間の会話にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定出来るような声掛けに努めている。活動意欲を触発するなど馴染みの物を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の希望を聞いて、出来ないところを職員がフォローしながら一緒に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出の時など気を付けている。季節にあった衣服を着てもらおう様心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物を取り入れたり、利用者の能力に合わせ、食材切りなど、してもらおうように心掛けている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話しながら、和やかに食事している。	
			(外部評価) 担当職員が季節や行事を意識して献立を立て、各ユニットで調理をしている。月に2回利用者に希望を聴き、メニューに取り入れている。利用者の状態に合わせて、おにぎりやミキサー食にするなど食事形態を工夫し、誕生日には利用者の希望する料理が用意され、手作りケーキや大福でお祝いしている。また、道の駅に出かけて外食することもある。昼食時、職員が南予方言で優しく声をかけている様子や、不穏な状態にある利用者に対し無理強いすることなく穏やかに食事介助をしている様子が印象的であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量、食事量のチェックをして、利用者に合わせて食べやすいよう工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、義歯洗浄をしている。きれいに磨けない時は、後で職員が磨くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間毎のトイレ誘導をしている。	
			(外部評価) 昼夜共になるべくトイレで排泄できるよう支援している。日中はできる限りリハビリパンツで過ごせるよう支援しており、現在おむつを使用する利用者は夜間に1名のみとなっている。毎日排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握し、頃合いを見計らってそれとなくトイレに誘導している。入院中おむつを使用していた利用者もできる限り元の状態にもどれるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給や食事面に気を付けている。また、医師の指示にて薬服用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1週間に4回程の入浴をしている。	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援しており、毎日入浴したい利用者は毎日入浴することもできる。全ての利用者が家庭浴槽でゆっくり湯につかってもらうよう支援している。困難な場合はたらいを活用することもある。入浴が苦手な利用者には時間を変えて声かけを行う等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入浴後とか外出の後には、30分程休んでもらうようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が利用者の手に薬をのせ服用を確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 行事に参加したり、レクレーションや料理の手伝いなど、能力に応じてしてもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外食に行ったり、四季折々の花見や地域の行事参加、職員と一緒に買い物に行ったり、ゴミ捨てに行ったりしている。	
			(外部評価) 日常的に散歩や買い物、遠くのごみ出しなどに外出している。重度化が進み、歩行レベルが低下している利用者が多くなっているが、管理者はできるだけ外出の機会を増やしたいと考え、福祉車輛を活用して月に1回みんなで外出している。季節の花々を楽しむためドライブや外食、地域の行事、他のグループホームの行事にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持する際は、家族の方と話し合い、買い物、初詣、輪抜けなど本人の希望で使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は家族から、かかってきたら、お話をされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を置いたり、ソファを置きくつろげるようにしている。	
			(外部評価) ユニット毎にある玄関を入ると広々としたリビングになっていて、換気に気を付けているという共用空間は清潔で気持ちが良い。オープンキッチンと食卓、畳コーナー、ソファ席があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。道路側の窓は大きく開放的で道行く人々を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファでお話をされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスの上やベッドの枕元に、写真を飾って馴染みの物を置いてもらうようにしている。	
			(外部評価) 居室にはエアコン、クローゼット、洗面台、ベッドが備え付けられている。木製ベッドには手すりが設置され、楽に立ち上げられるよう配慮されている。枕元に宗教の本を置いている利用者や、手作りの作品を飾っている利用者もいる。壁には家族写真や行事の写真を飾り、居心地の良い部屋になっている。事業所では、1日1部屋大掃除をするという方針を掲げ、利用者と一緒に部屋の隅々まで掃除を行っており清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下の壁や居室の戸口には、本人の書いた塗り絵を張っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873800373
法人名	有限会社清水商事
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
所在地	西予市宇和町坂戸336-1
自己評価作成日	平成 27年 10月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成27年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者本位でしたい事をしてもらい、笑顔で過ごせるような対応に努めている。自然豊かな環境で、静かでゆったりと過ごせる。散歩では、季節を感じ楽しむことができる。買い物や外出を多く取り入れ、利用者の方に喜んでもらえるよう支援している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は田園の中に立つ平屋の建物で、開設してから13年目を迎える。開設当初から入居している利用者も多く、100歳以上の利用者が3名いる。職員みんなで話し合っ決めて「笑顔ある生活」を理念として掲げ、笑顔で呼びかけ、利用者のペースに合わせてケアを行うことを大切にしている。近くの保育園児が散歩で事業所近くに来たことがきっかけで始まった園児との交流は、今では毎月訪れて一緒に手遊びをしたり、歌や踊りを披露してくれるまでになっている。また、利用者は登下校する小学生の姿をリビングから窓越しに見守っている。重度化が進み、歩行レベルが低下している利用者が多くなっているが、散歩や買い物、季節の花見物、外食、地域行事に参加するなど、できるだけ外出の機会を増やそうと努めている。職員は利用者の笑顔を仕事のやりがいとして、一人ひとりを大切に質の高いサービスを提供している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム宇和ひまわり

(ユニット名) B棟

記入者(管理者)  
氏名 松本京子

評価完了日 27年 10月 5日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念「笑顔ある生活」と指針を目につく所に貼り、笑顔で利用者の方々のペースで生活を送るよう関わりをもっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は理念に「笑顔ある生活」を掲げ、3つの指針を作成している。職員は、笑顔で利用者に接し、利用者のペースに合わせてケアを行うことを大切にしており、毎月行われる職員会において、日常のケアが理念に即したものになっているか振り返っている。また、理念を実践するために、職員自身の体調を良好に保つことの大切さを認識し、職員の精神衛生にも留意している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には、積極的に参加している。保育園や婦人会の方の来訪もあり、交流がある。散歩や買い物先でも、挨拶をし交流をもっている。</p> <p>(外部評価) 近くの保育園児が散歩で事業所近くに来たことがきっかけで始まった園児との交流は、今では毎月行われ、利用者は園児と一緒に手遊びをしたり、歌や踊りを楽しんでいる。事業所の前の道路は小学生の通学路になっており、利用者はリビングの窓越しに登下校を見守っている。また、地域の秋祭りには五鹿おどりや亥の子が訪れて交流をしている。日常的には、買い物やごみ出しで出会った近所の人と挨拶を交わしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の行事や外出、ボランティアの受け入れ等を通じ、交流をもつことにより、理解、支援をしてもらえるよう心掛けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 年に6回運営推進会議を行い、意見交換等している。年末には、もちつきにも参加していただき利用者との交流をもってもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者と家族、民生委員、老人クラブ会長、他のグループホーム職員、市職員の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や行事報告の他、駐在所警察官、地域包括支援センター職員の講話を取り入れている。また、毎年餅つきを一緒に行って交流している。災害時の近隣との協力体制について助言を得、地区消防団との繋がりを持つことができた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加してもらい、意見を参考にしていく。	
			(外部評価) 運営推進会議に市職員が参加して、事業所の状況を理解してもらっている。今年より地域包括支援センターに働きかけて運営推進会議に出席してもらうようになり、連携を深めている。市から研修案内があると、なるべく出席するようにしている。また、年間6回介護相談員が訪れ、利用者の話しに耳を傾けてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員会議や、職員間で話し合っている。特に声掛けなど気を付けている。玄関には、開いたら音が出るようにし、早めの対応をしている。	
			(外部評価) 外部研修に参加して職員会で報告し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。管理者は利用者がやりたくないことを奨めるのも拘束と考えており、利用者の思いを大切にしよう努めている。転倒の危険のある利用者には鈴をつけてもらい、夜間すぐに駆けつけられるよう工夫している。事業所の前は公道になっており車の往来もあるが、日中玄関は施錠せず、職員は必ず一人はリビングに居るように声を掛け合って、見守りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 月1回の会議や研修に参加し報告を行い、職員がそれぞれ注意し防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、職員会議で報告をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に説明をし、不安や疑問などがあれば、説明を行い、理解、納得が得られるように心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に苦情箱や担当者を明記し、説明を行っている。面会の時などに近況報告をし、意見や要望を伺っている。ケアプランの作成を行い、説明している。	
			(外部評価) 家族が面会に来た時は必ず声を掛けて、勤務している職員が日々の様子を伝えている。遠方に住む家族には担当職員が近況を書いた手紙を請求書と一緒に送り、変化があった時は電話で知らせている。年2回家族会を開催し、昼食を兼ねて意見交換を行っている。運営に対する注文や、家族同士で話しがしたいという意見もあり、次回家族会に反映する計画である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的にリーダー会議を行ったり、月1回の会議で相談したり意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 月1回の職員会は全員参加で行っており、現場での問題やケア内容について皆で話し合っている。職員から出た意見は管理者が経営者に伝え、反映させている。管理者は個人の能力に応じて研修を受けられるよう配慮し、さらに研修への参加は勤務扱いとしている。また、子育てと仕事が両立できるよう、勤務体制への配慮がされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者に報告している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の参加を促す。会議で研修報告を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他施設との運営推進会議や行事、勉強会等参加させてもらい、交流を通し、質の向上に努めている。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、本人、家族との話し合いをし、不安や要望を伺っている。コミュニケーションをとり、安心できる関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族や利用者の状況を把握し、家族等の要望に応えられる良い関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族、本人と話し合い対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事をしてもらい、共に生活をしながら尊重し、良い関係を築いていけるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月、手紙で近況報告を行っている。必要がある場合は、連絡をとって報告や話を伺っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の家族・知人が、いつでも来て頂けるよう心掛けている。家族や利用者がいつでも電話で話ができるよう支援している。  (外部評価) 地元からの入居者が多く、近所の方や知人が訪ねてくる。同じ地区から入居している利用者は、ユニット間を自由に往来して付き合いが継続できるよう配慮している。買い物に出かけた先で知人に会うこともあり、挨拶を交わしている。また、家族が付き添って墓参りに出かけた時、自宅を見たいという利用者には自宅近くまでドライブする等して、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 体操・風船バレー・歌などを通し、皆が一緒に楽しめるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約後も、相談等あれば対応している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人、家族との係わりを通し、希望や意向の把握に努めている。毎月の会議で意見交換している。	
			(外部評価) 日常の会話や利用者同士の会話、家族との面談を通して一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めている。1対1になる入浴介助時は昔話しも出て、思いを聞く好機になっている。知り得た情報は記録用紙に追記して職員間で共有している。思いを伝えることが困難な利用者には、表情や反応から汲み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から、話を伺うことにより、生活歴や馴染みの暮らしなど把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックを毎日行っている。自分のできる事や興味のあることを声掛けしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画に関して、本人、家族の意見を求めている。月に1回職員会議で話し合い、現状に則して介護計画の作成に努め、見直しを行っている。	
			(外部評価) 担当制をとっており、担当職員が本人や家族の意向を確認して原案を作成し、計画作成担当者と管理者が確認をしている。毎月モニタリングを実施し、職員会で話し合って利用者の現状にあった計画になっているか検討している。6か月毎に家族にも参加してもらって担当者会議を開催し、家族の同意を得ている。遠方の家族には電話で意向を確認し、郵送している。介護計画は介護記録ファイルに綴じ、計画に沿ったケアが行われているか毎日実施状況をチェックしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践や気づきなどを個別に記録し、職員間で、情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その時々にもニーズに対応し、柔軟な支援やサービスが行えるよう取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 避難訓練、地域の行事の参加、保育園児との交流やボランティアの方に来てもらい、安全で豊かな暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族の希望を聞き、納得が得られる医療を受け られるよう支援している。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう 支援している。旧町内の医療機関であれば、職員が付 き添って受診している。町外にある専門科医院への通 院は通常家族が付き添うが、状況を把握するため職員 が付き添うこともある。職員は日頃より利用者の健康 状態をよく観察し、異常の早期発見に努めて適正な医 療が受けられるよう心がけている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職の気づきなど必要な情報を提供し、早めの病院 受診を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者の入退院の際、付き添い、家族への連絡も行っ ている。病院関係者とも、情報交換や相談に努め、良 い関係づくりがもてるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族との話し合い、医師と相談しながら方針を 決めている。	
			(外部評価) 現時点では、看取り支援は行っていないことを利用者 や家族に説明し、理解を得るようにしている。利用者 が重度化し医療が必要な状態になれば、医師と家族で 相談して入院できるよう支援している。現在往診でき るかかりつけ医がいないため、看取りケアを行う医療 体制が整っていないが、将来的には家族の希望があ り、条件が整えば看取りケアが必要になると管 理者は考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修に参加した職員が、職員会議で急変時の対応や、救急処置について、報告や実践を行い、事故発生時に備えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防署の職員の立ち合いのもと、避難訓練を行っている。その際、指導、助言を受けている。  (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもと避難訓練を行っている。運営推進会議で訓練の報告を行い、避難手順を誰が見ても分かるように壁に掲示した。また、会議を通して地区の消防団と面識を持つことができ、次回の訓練にも参加を依頼している。水や食料等の備蓄品の整備も行っている。	事業所は、運営推進会議の助言を得て地区消防団との協力体制づくりに取り組もうとしている。実地訓練を通して、具体的な役割分担等の協議ができることを期待したい。また、職員全員が交代で避難訓練に参加し、いざという時に避難誘導ができることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりと、コミュニケーションをとり、尊重しプライバシーの確保に努め、プライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるよう心掛けている。  (外部評価) 管理者は利用者一人ひとりを尊重するケアを行うためには、利用者の話しをよく聴くことから始めなければならないと考え、新入職員への指導を行っている。排泄や入浴介助を行う際に恥辱心に配慮することはもちろん、個人情報取り扱いを慎重に行うよう努めている。守秘義務を徹底し、引継ぎの時に個人名を出さない等、職員間の会話にも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 洋服を一緒に選んだり、おやつも本人の好きな物を用意している。なるべく本人の思い、希望を自己決定してもらえるよう心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望を聞き、できないところを職員がフォローしながら一緒に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みの服を一緒に選んだり、希望があれば散髪に来てもらったり、馴染みの美容室へも行かれる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と共に食材切りをしてもらっている。月2回のお楽しみ献立をつくり、食べたい物を聞きメニューに取り入れている。	
			(外部評価) 担当職員が季節や行事を意識して献立を立て、各ユニットで調理をしている。月に2回利用者に希望を聴き、メニューに取り入れている。利用者の状態に合わせて、おにぎりやミキサー食にするなど食事形態を工夫し、誕生日には利用者の希望する料理が用意され、手作りケーキや大福でお祝いしている。また、道の駅に出かけて外食することもある。昼食時、職員が南予方言で優しく声をかけている様子や、不穏な状態にある利用者に対し無理強いすることなく穏やかに食事介助をしている様子が印象的であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 野菜、肉、魚、バランスよく食べれていると思う。生魚など苦手な人は、焼いて工夫をしている。定期的に栄養士にチェックしてもらい参考にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアの声掛けをし、チェックしている。義歯がきれいに磨かれていない時は、後で援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時間毎のトイレ声掛け誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。個人のペースにあわせてトイレ誘導している。	
			(外部評価) 昼夜共になるべくトイレで排泄できるよう支援している。日中はできる限りリハビリパンツで過ごせるよう支援しており、現在おむつを使用する利用者は夜間に1名のみとなっている。毎日排泄チェック表に記入して排泄パターンを把握し、頃合いを見計らってそれとなくトイレに誘導している。入院中おむつを使用していた利用者もできる限り元の状態にもどれるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品、海藻類繊維質の食品をとってもらうように心掛けている。排便チェックを行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 無理強いしないような声掛け誘導を心掛けている。	
			(外部評価) 2日に1回入浴できるよう支援しており、毎日入浴したい利用者は毎日入浴することもできる。全ての利用者が家庭浴槽でゆっくり湯につかってもらうよう支援している。困難な場合はたらいを活用することもある。入浴が苦手な利用者には時間を変えて声かけを行う等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中しんどい時は、休息をとってもらって、人に合わせた支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院よりもらった「薬の説明」の用紙をそれぞれの記録にとじ、確認出来るようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者との会話や、家族の話を伺い、その都度、暮らしの情報用紙に記入し、職員全員で情報を共有している。日々、張り合いや、喜びをもって過ごす事が出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の希望により、散歩や、買い物に出かけたり、季節の花見や、外食、ドライブ等、定期的出来るよう家族や地域の方と協力しながら支援している。	
			(外部評価) 日常的に散歩や買い物、遠くのごみ出しなどに外出している。重度化が進み、歩行レベルが低下している利用者が多くなっているが、管理者はできるだけ外出の機会を増やしたいと考え、福祉車両を活用して月に1回みんなで外出している。季節の花々を楽しむためドライブや外食、地域の行事、他のグループホームの行事にも参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を所持する際は、家族と話し合い、買い物、初詣、輪抜け等、本人の希望で使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人など、電話や手紙のやりとりができるよう支援している。また、本人の希望があれば、電話ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を置いたり、ソファを置いたり、くつろげるようにしている。	
			(外部評価) ユニット毎にある玄関を入ると広々としたリビングになっていて、換気に気を付けているという共用空間は清潔で気持ちが良い。オープンキッチンと食卓、畳コーナー、ソファ席があり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。道路側の窓は大きく開放的で道行く人々を眺めることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファで過ごしたり、畳の上で過ごしたり、思い思いで過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) タンスの上に写真を置いたり、テレビ、位牌を置いたりし、馴染みの物を置き過ぎしやすいようにしている。	
			(外部評価) 居室にはエアコン、クローゼット、洗面台、ベッドが備え付けられている。木製ベッドには手すりが設置され、楽に立ち上げられるよう配慮されている。枕元に宗教の本を置いている利用者や、手作りの作品を飾っている利用者もいる。壁には家族写真や行事の写真を飾り、居心地の良い部屋になっている。事業所では、1日1部屋大掃除をするという方針を掲げ、利用者と一緒に部屋の隅々まで掃除を行っており清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室など大きく名前を書いて場所がわかるようにしている。廊下での手すり歩行を必要な人は誘導し、安全に生活できるようにしている。	